

## 北前船が運んできたものを見ながら「北前船の直江津」を歩いてみる

### ◇ライオン像のある館

石炭王と言われた高橋回漕店の社屋。もとは明治 40 年に建てられた直江津銀行の建物で、銀行解散の後大正 9 年に移築。和洋折衷の擬洋風建築と呼ばれる建築。室内は銀行の名残と達太が詠えた家具を見ることができる。

### ◇林覚寺の小路

旅情を誘う小路の景観と江戸時代に砂丘の斜面を南北に切り開きまちが拡大していく様子がわかる。関川と平行に職業別に集住する町が作られたが、江戸中期以降まちが拡大するにつれ、いろいろな職業が混在する町ができる。明治 3 年の「渡世向軒別書上帳」にその傾向を確認できる。

### ◇えびす稲荷神社

日本海を望む砂丘の頂点から、風待ち、冬の船玉囲いの郷津湾の景観がわかる。  
文化11年「子ノ秋船轆轤帳」(虫生岩戸文書)によると、この冬 40 艘も囲われた。

### ◇福永神社

直江津今町の商権を回復させた恩人を祀る

### ◇日野宮神社

能登半島・能登島から移住してきた人たちの産土神社

### ◇日吉神社

曼荼羅寺の守護神



泉蔵院 笏谷石の六地藏

### ◇泉蔵院

室町時代以前の曼荼羅寺を継ぐ直江津最古の寺。真言宗豊山派(長谷派) 笏谷石の六地藏、本堂の土台石、寺院には珍しい船絵馬など

### ◇八坂神社

直江津の産土神社 八坂・諏訪・日吉の三柱社  
享保6年(1721)～天保14年(1843)造営の社殿の基壇・土台の笏谷石・御影石の参道など

### 御影石の鳥居(明治 41 年・尾道の石工寄居弥七)

献灯 鈴木善右衛門 文化 12 年 7 月

片田八右衛門(片田三郎右衛門) 尾道産

勝島佐五左衛門 文政 5 年 3 月 尾道産

直江津盛塩商会 明治 23 年 3 月 尾道産

※神明宮 直江津の海運の隆盛の面影



八坂神社 笏谷石の社殿基壇

◇真行寺 浄土真宗本願寺派

経蔵の基壇 経蔵・勝島佐五左衛門 六世 他 (八坂神社)

廻船業にかかわる商家の墓地 勝島・尾澤家など 真行寺歴代墓を守る笏谷石の13仏パネルの一部

◇観音寺

笏谷石の敷石・墓碑



真行寺歴代墓地のパネル状の十三仏

◇金刀比羅神社

献灯 直江津盛塩商会 備後国尾道石工

木田秀助 明治23年3月

古川長四郎ほか 備後国尾道石工

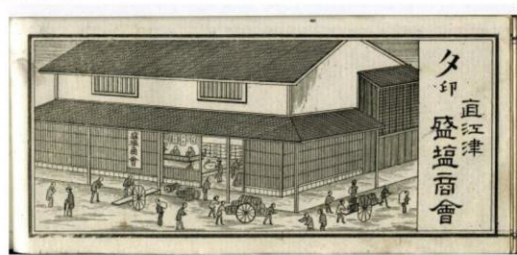
木田秀助 明治23年

片田長三郎 備後尾道石工作 安政4年3月

片田家所有の船にの船頭に長三郎の名前あり



金刀比羅神社



明治22年「北越商工便覧」

以下にあげたところにも北前船によって運ばれ遺物がありますので機会があったら訪ねてみてください。

住吉神社 阿波の国藍商人寄進の灯籠・手水石

府中八幡宮 笏谷石鳥居 残決

五智国分寺 境内・養翁清水ほか

居多神社 北参道鳥居

国府別院 袈裟かけの松の前の灯籠 参道入り口の灯籠

※また市内には多くの笏谷石の製品を見ることができます。



## 海運によってもたらされた石材について

### 笏谷石

福井市の足羽山あすわやまから産出する凝灰岩ぎょうかいがん(火山灰が堆積したもの)。美しい緑色で越前青石ともいわれます。加工しやすく、また耐火性に優れているため、各種石造品に加工されています。

上越地域には中世にはすでに製品として入ってきたと思われます。笏谷石の宝篋印塔ほうきょういんとうが中世の寺院域である国府小学校の西側から発掘され、五智国分寺本堂の左手の墓地に保管されています。また、林泉寺の川中島合戦戦死者供養塔も笏谷石であることからでも推測できます。

江戸初期に至って〈注文〉製品が大量に移入されるようになりました。林泉寺にある松平光長の嫡子綱賢つなかつの墓石と参拝道は笏谷石の敷石と灯籠が立てられています。高田寺町の天崇寺の松平光長の母勝子と初代高松宮妃寧子の墓所は笏谷石の玉垣と灯籠で荘厳されています。

その他、高田寺町の寺院に笏谷石の製品を見ることができます。これらは、越後府中時代の寺院が福島城下を経て高田寺町への移転に伴い墓石なども移転したためです。

今、塀などに多く見られる緑色の石は、ほとんど栃木県の大谷石で明治以降に鉄道で運ばれたものです。笏谷石と同じ凝灰岩ですが、表面が荒く大きな気泡があることで笏谷石との違いがわかります。



林泉寺 川中島合戦戦死者供養塔



八坂神社参道御影石敷石

### 御影石

神戸市の御影みかげで産出された花崗岩。現在は採掘されないので同様の花崗岩を御影石と呼んでいます。上越地域に入ったものの多くは明治以降と考えられます。

直江津の八坂神社参道の御影石は昭和3年ころ敷かれたもので、一枚の大きさと量は上越でもまれにみるものと言えるでしょう。

また、江戸末期から明治時代にかけて尾道の御影石の灯籠が移入され、八坂神社、金毘羅神社、住吉神社などの灯籠に奉納者と尾道の石工の名前が刻まれていることから、注文品であることがわかります。

### 運ばれた石の意味

日本海の西回り航路が開発され、北前船と呼ばれる船が活発に航海するようになると、単に船の喫水きつすいを下げるための重石として、笏谷石や御影石、紀州石と呼ばれる庭石などが積まれてきたと言われていますが、敷石や土台石の寸法が一定であることから、ほとんどが販売目的または石工の銘が入った注文品として積まれてきたものと思われます。